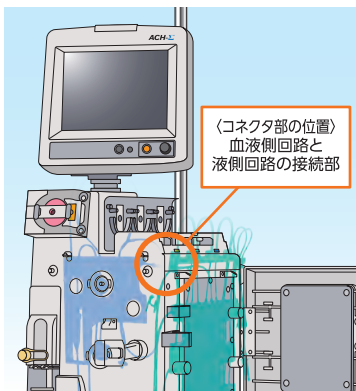
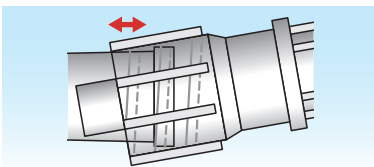


生理食塩液の接続前に、回路セット異常7または回路セット異常9が発生した！



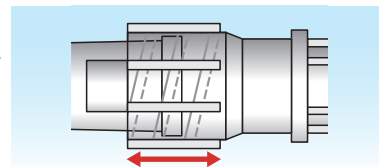
このタイミングの上記警報は、補液ラインの接続部の嵌合不良が原因と推定されます。一度接続部を外し、下記の接続方法で再接続してください。

返送品の解析結果



返送品の嵌合部分は、僅かに角度がありエア漏れが発生します。コネクタ部の挿入長も浅め(↔)です。

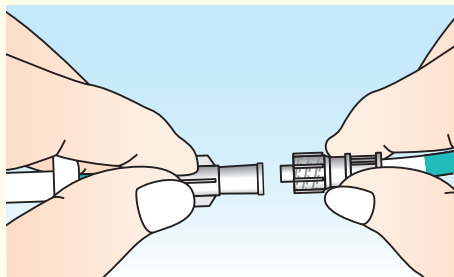
再接続すると



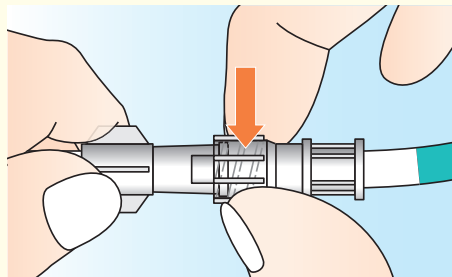
正常な嵌合の場合、コネクタ部は一直線になりコネクタ部の挿入長も深く(↔)なっています。

ここに注意して接続

①オスコネクタをまっすぐ差し込みます。



②ロックリング(黄色矢印)を指で回転させ締めこみます。



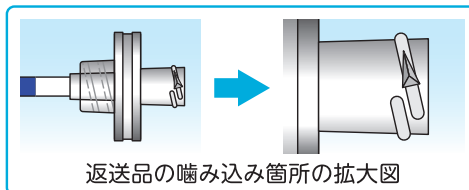
準備中や治療中に警報が発生し、表示された確認ポイントをチェックしたが警報を解除できない！

発生した警報

リークチェックエラー、回路セット異常4又は9、ろ過圧下限(TMP上限)など

返送品の解析結果

上記警報は、疎水性エアフィルタの取り付け時の嵌合不良による空気漏れが原因と推定されます。(嵌合不良が発生した場所と工程により、発生する警報が異なります。)



ここに注意して取付け

疎水性エアフィルタを装置から一度取り外し、下記の手順で再取付けします。なお、疎水性エアフィルタが生食等で被液している場合は、交換が必要です。

注意:嵌合不良が発生している状態で疎水性エアフィルタを増し締めしても空気漏れは改善しません。



①差し込む
TPフィルタを受圧口と平行の状態ですら軽く差し込みます。



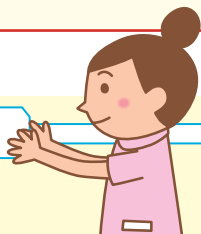
②左に回す
TPフィルタを①反時計方向に回し続けると、フィルタが②カタツと奥に落ち込みます。(半周以内)



③右に回す
落ち込んだ位置よりTPフィルタを時計方向に回して締め込みます。

重要

疎水性エアフィルタの濡れや空気漏れは、正しい圧力の測定ができず様々なトラブルの原因になります。



CART施行前にTMP1の設定をされていますか？



この設定画面では、3つの項目について設定が必要です。

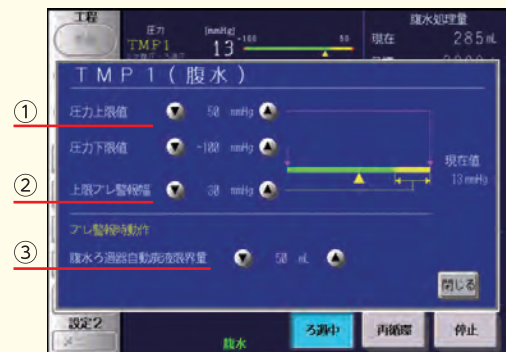
ここに注意して設定

① 圧力上限値: 300mmHg 以下

【注意】 血性腹水の場合は、圧力上限値を100mmHg以下に設定してください。この値を超えると溶血の可能性が高まります。

② 上限プレ警報幅: 10~90mmHg
この設定が0mmHgの場合は、実圧が圧力上限値に達しても腹水ろ過器から廃液されません。

③ 腹水ろ過器自動廃液限界量: 100mL以上
この限界量を超える廃液はできません。



適切に設定されていない場合に想定されるトラブル

- ✓ 血性腹水の時に圧力上限値を100mmHg以上に設定した場合
▶ 回収用貯留バックの腹水が赤くなる(溶血の発生)!
- ✓ 上限プレ警報幅を0mmHgで設定した場合
▶ 圧力上限値まで実圧が上昇しても廃液ポンプが作動しないためTMP1が低下しません!
- ✓ 腹水ろ過器自動廃液限界量の設定が少ない場合(上限プレ警報幅を0mmHg以外に設定)
▶ TMP1の上昇で廃液ポンプは作動しますが、廃液量が少ないとTMP1が下がりにません!

重要

TMP1の設定が適切であっても、疎水性エアフィルタが濡れていると正しい圧力測定ができません。

差圧下限警報時に画面の「入口圧チャンバ調整方法」の対処をしたが、警報が解除できない!

対処方法 ボタンを押すと対処手順(右下)が表示されます。

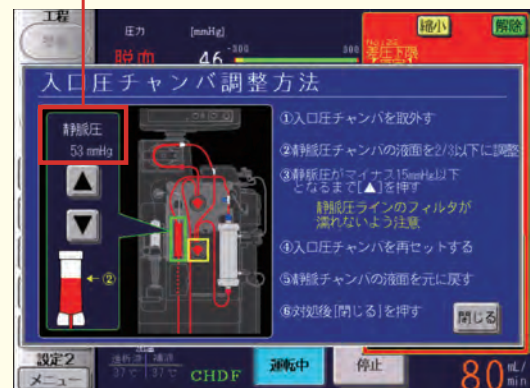
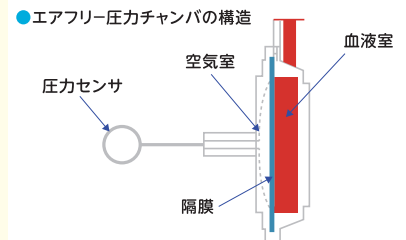
ここに注意して操作

対処手順の③ 静脈圧が **マイナス15mmHg以下**

になるまで[▲]を押してください。
この圧力が高いと警報は解除できません。

静脈圧をマイナス15mmHg以下に下げる理由

入口圧エアフリーチャンバの隔膜を適正な位置に調整します。
この隔膜が適切な位置で装着されないと正確な圧力が測定できません。



お問い合わせ先

旭化成メディカル株式会社

東京都千代田区神田神保町1-105

神保町三井ビルディング 〒101-8101

TEL: 03-3296-3723

www.asahikasei-medical.co.jp